

西暦 2023 年 / 月 / 日

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報の公開について

当センターでは、下記の研究を実施しております。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、研究対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせ、研究参加への拒否依頼などがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
研究課題名	双胎妊娠における子宮頸管長と自然早産の関連についての検討
研究代表者 氏名・所属部署	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 林 周作・産科
研究対象者 (研究対象者等が自身が対象者であると容易に知り得るように記載)	2015年1月1日から2021年12月31日の間に、妊娠14週未満で受診され、当院で周産期管理を行った双胎妊婦の方
研究期間	研究実施許可後～2024年3月
研究目的・方法 (意義、目的、方法、試料等の二次利用等)	<p>双胎妊娠では、単胎妊娠と比べて自然早産率が高いことが知られています。子宮頸管長が短くなることは自然早産のリスクの一つであり、当院では双胎妊婦さんに対して妊娠18週頃と26週頃に2回の子宮頸管長のスクリーニング検査を行うことで、自然早産のリスクを評価しています。</p> <p>しかしながら、どの時期にどの程度子宮頸管長が短ければ、自然早産しやすいかという点については、十分には解明されていません。</p> <p>この研究によって、双胎妊婦さんの中でも特に早産のリスクが高い妊婦さんを把握することができます。また最適な子宮頸管長や測定時期、回数を知ることができます。</p> <p>研究対象となる方の診療録から情報収集を行い、統計的解析を行います。個人情報の保護のために診療録の情報は匿名化の上で取り扱います。また研究成果の公表に際しては個人が特定されることはありません。</p>
研究に用いられる試料・情報の項目や種類	診療録情報(年齢、経産回数、人種、既往帝王切開、双胎の膜性、妊娠前 Body Mass Index、体外受精、妊娠中の喫煙習慣、妊娠中の性器出血、自然後期流産既往、自然早産既往、円錐切除既往、リトドリン治療、マグネシウム治療、プロゲステロン治療、ステロイド治療、子宮頸管縫縮術、子宮頸管長、子宮頸管長計測週数、前期破水、分娩週数、分娩方法、児出生体重、児のアプガー値、新生児合併症、新生児治療)

<p>研究計画書などの研究関連資料の入手方法、または閲覧方法</p>	<p>本研究の研究対象者(等)が、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手または閲覧をご希望される場合、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で入手、または閲覧ができます。下記の間合せ先までご連絡ください。</p>
<p>個人情報の開示に係る手続き</p>	<p>本研究の研究対象者(等)から、個人情報の開示の求めがあった場合、保有する個人情報のうちその本人に関するものに限って、地方独立行政法人大阪府立病院機構 個人情報の取扱及び管理に関する規程に基づいて、開示手続きをとりますので、下記の間い合わせ先までご連絡下さい。</p>
<p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先</p>	<p>地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター 産科 林周作 電話 0725-56-1220 (代表)</p>